

福井若狭の原発の状況、「若狭の家」の設置に関して

木原壯林（汚染水問題を憂う京都府民の会・「若狭の家」運営委員会）

- 私は、高浜、大飯原発再稼働断固阻止の決意を表明し、反原発「若狭の家」のご紹介を致します。
- さて、安全な原発など存在せず、原発は人類と共存し得ないことは、福島原発の惨状が実証しています。事故炉の内部や地下の状態はいまだに分からず、事故収束の目途は全く立っていません。汚染土壌の除去・除染、汚染水の漏洩防止、放射性物質の除去作業はトラブル続きです。使用済み燃料や放射性廃棄物の完全処理は不可能であり、安全保管法もありません。原発事故の要因となる地震や火山噴火の時期と規模の予測も不可能であることは、3.11の大震災、最近の御嶽(おんたけ)山の噴火の例を挙げるまでもなく、明らかです。現在科学・技術は原発を制御できるほど進歩していないのです。したがって、原発を運転し続ければ、再びの大惨事は避け難いことは明らかです。それでも政府、電力、原子力規制委員会（規制委）は原発再稼働を画策し、そのために、全く実効性のない事故時避難計画を立案しています。
- 世界人口は50年以内に減少に転じることと、省エネルギー機器開発や発電・蓄電技術の改良が急速に進歩することとが相まって、近い内にエネルギー使用量・要求量は減少し、原発は不要となると考えられます。
- このように事故を避け得ないのみならず、近々不要となる原発であるにも拘らず、いま、原発再稼働の風雲は急を告げています。
- 規制委は、9月10日、パブリックコメント17,800の大半を占める原発再稼働反対の意見をほぼ完全に無視して、川内原発再稼働適合「審査書」を決定しました。また、これに引き続いて、電力関連企業の動員した人たちが多数を占める、茶番劇的な翼賛住民説明会を開きました。人々を愚弄し、民主主義を蹂躪する暴挙です。
- 一方、利害関係者が多数を占める薩摩川内市議会は、10月28日に再稼働推進の決議をし、29日召集の臨時鹿児島県議会は、昨7日、31の再稼働反対の陳情は否決し、川内商工会から出されていた推進の陳情を採択しました。また、これを受けて、伊藤知事は、再稼働に同意を表明しました。川内市以外の自治体の要望や6割以上の国民の意志は無視し、政財界におもねり、目先の利益のみを優先する決定です。福島事故の教訓は全く反古にされています。
- しかし、川内原発再稼働阻止の戦いは終わったわけではありません。鹿児島現地の運動はさらに新しい段階に対応して高揚するでしょう。私たちもさらに強く連帯し、規制委員会の最終決定を阻止しなければなりません。
- ところで、川内原発の再稼働を認めた規制委は次のターゲットを高浜原発とし、10月31日に関西電力から再稼働審査申請書を受け取り、合格証にあたる審査書の案の作成に着手しようとしています。
- いま、高浜原発を再稼働すれば、2年半以上の停止によって、折角減少した核燃料の放射線レベルが、元に戻り、危険度が圧倒的に増します。
- 人類の手に負えない原発の再稼働を画策すること自体が、誤りであり、犯罪です。彼らに要求される切実かつ緊急な課題は、再稼働ではなく、福島惨状に対する対策、被害者救援と、安全かつ早急な全原発廃炉の検討です。
- ところで、原発再稼働審査をしている規制委は、5人の中の4人が「原子カムラ」の出身であり、結局、原発の再稼働、輸出、汚染水垂れ流しのための検討委員会です。そもそも、福島原発事故を最悪の事態に導いたのは、現代科学・技術を過信し、安全神話を作り上げ、それによって利益を得ようとした「原子カムラ」の人々の誤った事故対応です。この事故は、人災と言っても過言ではありません。

せん。したがって、原発を推進してきた人達は、福島事故の後は、深く反省し、謝罪と恭順の意を表して謹慎するか、原発の犯罪性を認めた上で、原発全廃のために貢献すべきであります。

■なお、原子力は、総合科学です。規制委が中立を標榜するなら、原子力界中心の人選ではなく、国内外を問わず、広分野に人材を求めるべきです。世の中には、原子力界よりはずっと優秀な知恵者が多数います。しかし、広く人材を求めれば、「原子力ムラ」が浸食され、崩壊し、原発を存続できなくなるから、政府はそうしないのです。それが、原子力政策の本質です。

■このように、国民を欺くために設置された規制委は、科学的根拠も希薄な新基準で原発再稼働を審査し、全国の原発の適合判断を出そうとしています。ところが、どんな審査基準を作っても、安全な原発はできないことは、田中委員長の発言からも明らかです。彼は、川内原発審査にあたって「安全を担保したとは言っていない」というコメントを付けて、責任逃れをしています。この適合審査が原発再稼働を大きく前進させることは明白であり、人々をバカにするにも程があります。これは、殺人兵器でもその製造法が兵器推進団体が作った基準に適合していれば、製造を認め、兵器の犯罪性は議論しないというのと同類です。こういう人達は、次に事故が起これば、「想定外」といって言い逃れするに違いありません。

■現在、安倍政権が、世界の人々を欺いて、強引に原発再稼働を進めている理由は、原発の電力を得たいからだけではありません。もう一つの理由は、安倍政権が進める経済政策の破綻を、暴利に繋がる原発輸出によって隠ぺいするためです。しかし、原発が国内で動いていないと売り込みに迫力がありません。彼らは、そのためにも原発再稼働に躍起なのです。原発輸出を阻止し、世界から原発を放逐しなければなりません。

■ところで、若狭は、13機の原発と「もんじゅ」、廃炉中の「ふげん」がある原発密集地域であり、国内でも最も原発事故の確率は高い地域です。しかも、若狭の地形、道路、交通手段を鑑みると、事故に際しての避難は、福島とは比較にならないほど困難で、被曝なしでの避難など考えられません。

■一方、電力消費を通して、間接的に原発推進に加担してきたともいえる近畿は、一旦若狭で原発事故が起これば、大気中を飛来する核分裂生成物および近畿 1,600 万人の水がめである琵琶湖の放射性物質汚染によって、被曝被害地になります。近畿は福井の被害者の避難先とされていますが、近畿も被災地となり、安全な受け入れなどできる場所ではありません。

■このような若狭の原発の再稼働は何としても阻止し、早期の全廃に追い込まなければなりません。そのためには、若狭と近畿の反原発運動の圧倒的な連帯と高揚が肝要です。しかし、若狭の反原発運動の実態は、八面六臂のご活躍の方々が居られるものの、その数には限りがあり、高浜、大飯などの住民多数の賛同を得ているとするには程遠い状況にあります。これらの自治体経済の原発依存度が大きいことが主要因であろうと考えられます。

■一方、電力消費地＝近畿での原発 NO の運動も、盛り上がりには欠けます。近畿に比べて格段に人口の少ない、愛媛や鹿児島での反原発集会在が 6 千人から 1y 万人に近い結集を得ていることに比べて、近畿での結集は見劣りするものが現状であります。

■これからは原発全廃の運動の正念場です。とくに、若狭と連帯した近畿の運動は、全国の反原発運動の要となりますから、全国の注目と期待が集まっています。

■私たちも、若狭の原発の再稼働を阻止し、全廃を勝ち取る活動の活性化の一翼を担うために、この 10 月 1 日、大飯町に「若狭の家」を設置しました。多くの皆様のご支援の賜物です。ありがとうございました。

■「若狭の家」には、近畿から出向いて長期に滞在して、若狭で活動している人々と討議、情報交換、交流を行い、また、地域住民との頻繁な交流・対話を通して、この地域での原発全廃の運動を強化あるいは組織します。一方、福井で反原発運動を展開している人達の運動拠点としても活用していただ

き、若狭地域での反原発運動の活性化を図ります。ここにお集まりの皆さんもご活用ください。

■一方、私たちは、目前に迫りつつある高浜原発再稼働を阻止するために、各地での反原発の運動を再構築し、来年3月、現地で大闘争を展開し、それに引き続いて大阪での関電本社包囲1万人大集会を勝ち取ることを呼び掛けます。あらゆる創意と工夫を凝らして、原発再稼働阻止の大きなうねりを構築しましょう。

■なお、政府は、原発で生成する長半減期元素を短半減期元素に変換して、放射性物質の低減化を実現する研究をでっち上げ、若狭に存在する「もんじゅ」をそのための国際センターにすると断言しています。放射性物質の低減化は全く荒唐無稽な国民だましです。目的元素のごく一部は変換はできても、大部分を変換することは原理的に不可能です。このような計画を立てた理由は、「もんじゅ」に、このセンターと原発技術者養成の国際センターの2つのセンターを設置することによって、日本の技術に対する原発輸出先国の信頼を得て、原発輸出を有利し、若狭を原発推進の国際拠点にしようとする事なのです。もう一つの理由は、この計画に不可欠である、使用済み核燃料の再処理を存続させることです。若狭に存在する最も危険な原子炉「もんじゅ」の犯罪性を暴露し、即時廃炉に追い込まなければなりません。「若狭の家」も「もんじゅ」の廃炉を目指します。

■話を元に戻します。

■現在、原発反対派は多数派であります。原発に関して、理は我々の側にあります。理不尽なのは政府、電力、財界です。そのことが選挙に表れていないのは残念ではありますが、大衆闘争を圧倒的に高揚させるとともに、その成果の上に裁判闘争にも次々と勝利すれば、必ず風向きは変わります。原発反対の運動と再稼働差止、脱原発の訴訟は、原発全廃運動の両輪です。この両輪をフル回転させましょう。

■原発は、自民党政権の最も弱い環であり、恥部でもあります。原発の再稼働を阻止し、全原発の廃炉を実現し、それを突破口にして、反動自民党政権を退陣させましょう。原発全廃の戦いは人間復興の戦いです。共に頑張りましょう。ありがとうございました。